

令和4年度山形県農業普及活動外部評価結果について

1 普及指導活動の体制について（組織・人員体制、普及指導員の資質向上の取組み等）

①評価点

- ・地域ごとに産地化に取り組み、成果が見られるのは良い。
- ・毎年しっかりと実施方針が示され、多いといえない普及職員数の中で計画的な普及・指導活動が展開されている。

②提案・意見

- ・気象変化が激しい昨今、県各地、園地の温度や天候など、周知できるシステムなどを希望する。
- ・JA出荷以外の生産者への技術指導にも力を入れてほしい。
- ・人員の少なさをどのように補うか、またその負担をどのように軽減させるかについて引き続き課題となる。
- ・具体的な到達目標が定量と定性であると各普及課のプロジェクトの方向性、到達目標も連動して具体化されると思う。
- ・普及職員数の配分割合はどうか。

③意見を受けての改善点

- ・人員が減少している中でも効率的に普及活動が行えるよう、各プロジェクトにおいてこれまで以上に、関係機関等との連携、情報共有の強化を図りながら普及活動を推進していく。また、引き続き、ICT等の先端技術を活用しながら、普及活動の効率化、高度化を進めていく。

2 普及指導計画について

【評価】 A：優れている B：妥当である C：見直しが必要

(1) 上山市特産「干し柿」産地の維持強化

【A：4名、B：1名】

①評価点

- ・生産者の意識を変える課題設定、役割分担の明確化は評価できる。
- ・HACCPに沿った衛生管理をしている生産者が増えたこと、衛生管理記録の記入率がUPしたこと等、新しい取組で大変だが、足並みをそろえたことが評価できる。
- ・伝統特産品だからこそ、新しい事への挑戦は難しい部分であるが、よくまとめている。

②提案・意見

- ・消費者との意見交換など、商品としての干し柿について、生産者へ意識づけするにはもう少し時間をかけないといけない。今後も支援を続けてほしい。
- ・HACCPの普及拡大は今後も課題。
- ・生産者の声はよくわかったが、消費者の声も聞きたい。

③意見を受けての改善点

- ・市場関係者のみではなく、消費者の声も普及活動計画へ反映できる様に努め、HACCPに沿った衛生管理を継続して取り組んでいけるよう、市とも連携しながら引き続き支援していく。

(2) 地域を牽引する優れた経営体の育成

【A : 3名、B : 3名】

①評価点

- ・目標に向けて細やかにサポートしており、法人の計画実施率が100%を達成できている。
- ・毎年実施している経営塾のアフターフォロー体制、受講生の活動から地域への波及効果を促す意味でも重要な課題である。

②提案・意見

- ・重点的な課題、プライオリティを明確にすると、より成果が見えてくるのではないかと。
- ・対象者の具体的な進捗率と傾向を分析して欲しい。計画の実施率が100%との内容であるが、具体的な進捗を掘り下げて分析し、農業経営者がどこで苦勞しているかを今後の普及活動に活かしてほしい。

③意見を受けての改善点

- ・支援対象者の現状の課題や目標について聞き取り等で捉え、一覧表を作成している。
- ・毎月支援チーム会議を開催し、支援状況について情報交換して進行管理を行うとともに、支援対象者の優先すべき課題等、実践チームにて情報共有を図りながら支援を行っていく。

(3) さくらんぼの新樹形、新品種の導入推進と高品質安定生産【A : 5名、B : 1名】

①評価点

- ・軽労仕立ての導入者数、面積とも増加しており、評価できる。
- ・導入者数の増加、「やまがた紅王」の幼木の順調な生育、防霜対応の技術普及など、着実に進められ、成果が上がっている。

②提案・意見

- ・パイプ代、収量、労働時間など、一般的な仕立て方との差を数値化することで、もっと興味を持つ人が増えるのではないかと。
- ・軽労仕立てはよりメリットを強調する必要があるし、やまがた紅王については、ブランドの良い「スタート」を切るための品質向上・安定が何より大切だと思う。

③意見を受けての改善点

- ・ 県で作成した「軽労仕立て 導入の手引き」をもとに、現地で導入した状況もふまえながら、生産者には経営的なメリット等の数値化した具体的な内容を示して、軽労仕立ての普及拡大を図りたい。
- ・ 次年度から取り組むさくらんぼの普及課題（令和5～7年度）では、①高齢化や労力不足に対応するための軽労仕立ての更なる導入拡大、②「やまがた紅王」の大玉果実生産によるブランドの確立、③気象変動に対応した安定生産について、さらに強化して取り組んでいく。

（４）魅力ある商品開発による6次産業化の推進

【A：2名、B：4名】

①評価点

- ・ POPによる販促、Instagramによる情報発信などに注力し、客数増加など効果をしっかりあげられている点が評価できる。
- ・ 販売力強化の取組と、それに伴い販売額が上がっていることは評価できる。

②提案・意見

- ・ ターゲットに関して、対常連客なのか、対新規顧客なのか明確にしつつ、入客分析などを行い、集客にあたっての戦略をさらに練られると良い。
- ・ 直売所の運営は、高齢化が課題であり今後の存続のための中期的な課題解決が望まれている。若手の導入や芽だしが大事と考える。

③意見を受けての改善点

- ・ 地域の高齢化や人口減少が進んでいく中、常連客に加え、これまで直売所を利用していなかった層も顧客に取り込んでいく必要があると考えている。直売所会員と課題を共有し、それぞれの直売所に応じた情報発信や店舗づくりを支援していくとともに、ターゲットを明確にした戦略の作成を支援していく。
- ・ 新たな普及計画では、若手役員を対象に、直売所のSWOT分析の実施と中長期的な経営戦略の作成を支援していく。

（５）流通拠点を核とした高品質生産によるえだまめ産地強化

【A：6名】

①評価点

- ・ 大規模選果施設の有効利用は、産地づくりにとても大切な問題である。うまく使って生産者も収益アップできるようにするための取組は評価できる。
- ・ 栽培面積の拡大、一戸当たり面積が増加し、課題に対してしっかり成果をあげられている。

②提案・意見

- ・ 排水対策が心配なところがあったので、今後の指導に期待したい。

- ・ステーションの稼働率をさらにアップしていくことが大切である。
- ・今後の課題として「ブランド力のある産地へ」とあるが、地域ブランドなのか豆ブランドなのか分かりにくい。

③意見を受けての改善点

- ・R5～6年度の普及活動計画では、これまでの活動を継続した中で、①出荷量の平準化に向けた品種導入の推進、②栽培技術のレベルアップに重点的に取り組む。
- ・今後も生産拡大による生産量の増加を図るとともに、JAや関係機関と連携し、知名度向上のためのPR活動等も支援していく。

(6) さくらんぼ「やまがた紅王」の導入を契機とした産地活性化

【A：3名、B：3名】

①評価点

- ・担い手として未経験の後継者、第三者の引継ぎがあったことはすばらしい成果である。
- ・健全樹割合は増加という成果を挙げられている点、佐藤錦の目標収量に対する実績割合も条件が悪い中であっても改善されており評価できる。

②提案・意見

- ・「やまがた紅王」の技術指導と成果だけでなく、離農対策や新規就農者への継承への課題解決の活動も入れることで、産地活性化につなげてほしい。
- ・「地域の柱となる生産者」で導入が進んでいるとのことであるが、他の生産者との温度差はないのか、産地活性化に繋がるのか不安である。

③意見を受けての改善点

- ・園地をスムーズに継承できるよう、継承前後の課題を明確にして支援していく。
- ・まずは地域の柱となる生産者が先導してよい実績を上げることで、他の生産者にも波及することを期待し、新規栽培者の参入にもつなげたいと考えている。

(7) 庄内柿の大玉安定生産と生産性向上による産地強化

【A：5名、B：1名】

①評価点

- ・単収についてはしっかり確保され、無人草刈り機の導入、実証圃での検証、大玉比率60%確保、と課題に対して、着実に成果を上げている。
- ・雹害、霜害対応の摘果マニュアルなど、収量を落とさない＝収益を落とさない技術の普及は活動の神髄といえる。

②提案・意見

- ・ブランド力の産地強化のためには、大玉安定生産による産地強化だけでなく、環境に配慮した新たな視点での取り組みも重要。
- ・大玉で味の良い柿を育てるためには摘蕾・摘果作業を丁寧にする必要があり、高齢化が進む中で生産者がついていけるのか。

③意見を受けての改善点

- ・大玉生産に加え、環境に配慮した栽培体系のマニュアルを作成し、新たなブランド力強化に取り組んでいく。
- ・春施肥による大玉生産に加え、摘蕾に重点化した摘果省力技術を検討し、生産者が取り組みやすい大玉省力技術を検討していく。

(8) 庄内アスパラガスの産地強化

【A：6名】

①評価点

- ・長期どり栽培の技術普及と栽培管理の「見える化」で、新規生産者も技術を習得できているようすばらしい。
- ・各課題とも、数値で見ると一定の成果を上げており、巡回指導や技術情報通信の発刊など、こまめで丁寧な施策が奏功している。

②提案・意見

- ・「あぐりログ」の活用、データ解析と数値の利用は、ぜひ今後とも続けていっていただき、農業のICT化のメリットを十二分に享受していただきたい。
- ・順調に産地拡大しているようだが、知名度的にはどうか？
- ・温暖な気象条件で育った味、豚糞堆肥での味はどうか？

③意見を受けての改善点

- ・首都圏では、3月から出荷される酒田市袖浦産のアスパラガス「砂丘育ちの甘えん坊®」が太く甘く食感も良いことから、好評を得ている状況。
- ・令和5年度は、当プロジェクトチームの活動の中で、「庄内まるごと届け隊」推進協議会（構成：県・市町・JA等）の事業を活用して、庄内産アスパラガスのPRを行う計画としている。

3 総評

①評価点

- ・産地ブランド化や技術向上など、尽力いただいているおかげで今後の担い手にも、いいモデルとして背中を見せていければ、新規就農、担い手不足の解消につながっていくと思う。

- ・普及員の方々の努力、スキル、ノウハウ、レベルがパワーアップしている。
- ・10年後の自分の経営を考えられる農家が増えてきたのではないかと今回の発表を聞いて感じた。
- ・ますますのサポートをお願いしたい。

②提案・意見

- ・「やまがた紅王」などいろいろな面で山形県の農業が全国的にも注目される年だと思うので、このチャンスを活かしてほしい。
- ・農業経営の光の部分だけでなく、影の部分も普及員として見て行ってほしい。プロジェクトの中で、技術と同時並行で、人づくり、産地づくり、事業承継、経営の問題などを解決できるように普及活動に盛り込んでほしい。
- ・今のトレンドとしてのICT化は、待ったなしという状況。山形としても遅れをとらず推進してほしい。
- ・作りたいものを作るというのではなくて、人々が、あるいは自分が食べたいものをつくる、自分が買いたいものを作るという視点を原点として考えてほしい。
- ・昨今、若者に響くのはSDGs。「環境にやさしい」というキャッチフレーズは効く。

③意見を受けての改善点

- ・委員の皆様からいただいた貴重な意見を次年度の普及計画に反映し、長期的な視点を持ちながら、環境保全型農業やICTの活用などにおいても、県民視点、現場主義、対話重視を理念に、効率的、効果的な普及指導活動に努めていく。